

University of Shizuoka Magazine

静岡県立大学広報誌

はばたき

No.133

2016.November

特集

創立30周年特集
地域とともに歩む
静岡県立大学

キャンパスピックアップ

静薬創立100周年記念
講演会・シンポジウム

研究室訪問

国際関係学部
島田研究室



CONTENTS

- p01 **特集**
・ 創立30周年特集
 地域とともに歩む静岡県立大学
- p05 **CAMPUS TOPICS**
・ 静葉創立100周年記念講演会・シンポジウム
・ ハラルサイエンスセミナー
・ 静岡県日中韓学生会議
・ オープンキャンパス
・ ドリームサイエンス
・ ファーマカレッジ
・ 高校生アカデミックチャレンジ
・ 男女共同参画推進センター講演会
・ 国際関係学部卒業生による心配学講座
・ 「AEDの重要性と使用方法」研修会
・ 公務員勉強会およびビジネスマナー講座
・ 国際関係学部生がフランスで研修旅行
・ 大邱保健大学海外研修
・ 第26回 星・木苗杯を開催
- p12 **活躍する卒業生**
・ 経営情報学部・研究科
- p13 **研究室訪問**
・ 国際関係学部 島田研究室
- p15 **産学民官連携**
・ 産学民官連携 シーズ&ニーズマッチング会
- p16 **図書館だより**
・ 2キャンパス合同学生選書ツアー／
 シリーズ 私の一冊の本
- p17
・ JR草薙駅新駅舎オープン
・ 多目的保育支援施設を開設
・ 市民勉強会オンライン公開
- p18 **Information**
・ 受賞一覧／教員人事
 はばたき読者アンケート



表紙写真:谷田キャンパス正門

創立30周年特集

地域とともに



COC事業
「草薙カイギ その6
～HUG(避難所運営ゲーム)～」の様子

災害時の避難所運営に関するシミュレーションカードゲーム「HUG」を題材に、本学の教職員、学生が、地域住民の方々と災害発生時の対応を考えるワークショップの様子。ワークショップは、静岡市危機管理総室や本学の防災ボランティアクラブ防'zの学生の協力を得て運営しました。「草薙カイギ」は、「地域」のつながりを考える活動の一環として実施しています。

歩む静岡県立大学

創立から30年、静岡県立大学は前進し続けてきました。
ただ一人で歩いてきたわけではありません。
この大学に通う学生たちが、教員が、職員が、地域の方たちとともに課題を共有し、
時に汗を流し、喜びを分かち合う。
そうした多くの「点」としての活動が線につながり、今の静岡県立大学を作り上げているのです。
今までも、これからも、静岡県立大学は、静岡県の最高学府として地域に
多くの恩恵をもたらすことができるよう、前進し続けます。



静岡県立大学が地域と連携を図 「教育」「研究」「人材育成」「学生活動」

教育

×

地域

しずおか学

しずおか学の授業は、ふじのくに地域・大学コンソーシアムとも連携し、自治体職員や、地域で働く専門員、住民の方を外部講師として招いたり、地元企業や各市町村を訪問するなど、座学とフィールドワークから構成されています。平成27年度入学者から、しずおか学は選択必修科目として、卒業までに2単位以上を履修することになっています。

※「しずおか学」はこの他にも、「茶学入門」、「静岡の防災と医療」、「地域づくりのインターンシップ」、「静岡の市民活動」等、地域の特色に触れ、実践的に地域課題に取り組む力を養う授業を展開しています。



「静岡地域食材学」PickUp 授業

静岡県は茶のみならず、柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇ります。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高いことから、学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身につけられるよう本学の教員をはじめ、食物の専門性を持つ外部

講師に講義を依頼するなど、地域と連携した授業に取り組んでいます。大井川や天竜川など地域に馴染みのある自然環境で採れるアユやヤマメをはじめとした水産物、山間部で採れるきのこ類など、静岡県ならではの食材について理解を深めることができます。

人材育成

×

地域

COC 事業

本学のCOC事業(※)では、平成26年度から「ふじのくに『からだ・こころ・地域』の健康を担う人材育成拠点」として、教育・研究・社会貢献の各分野で地域を志向した活動を通じて、次世代の地域を担う人材育成を進めています。この中から、地域における活動を紹介します。

※平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC:Center of Community)」

草薙地区の住民等との交流



健康づくりウォーキングの様子

草薙をテーマにしたワークショップや、草薙神社龍勢花火の勉強などを「草薙カイギ」として行っているほか、健康づくりのウォーキング、模擬授業などを通じ、本学の教員・学生と草薙地区の住民が交流を図っています。学生は、地域への愛着を深め、地域の一員としての自覚を持つようになっています。

地域リーダー育成プロジェクト



高校生とのワークショップの様子

地域に貢献したいと考える学生を増やすため、牧之原市と協働して行っている連続ワークショップです。地域に愛着を持ち、貢献する意欲の醸成を目指し、本学の学生と県立榛原高校、相良高校の生徒が、地域や将来に関するテーマで対話をしています。人口減少対策の新たな取組として展開していきます。

地

りながら取り組んできた活動を 」の4つの切り口に分けてご紹介します。

研究 × 地域

産学民官連携

本学は、文理融合、薬学部と食品栄養科学部による「薬食同源」「食薬融合」などの特色を活かし、幅広い分野の研究を進めています。

大学と企業が共同して研究を行う産学連携活動では、研究を通じて得られた知見が、企業の商品開発に生かされており、大学の持つ研究成果を社会に還元する社会的使命を果たすとともに、大学の研究レベルの向上につながっています。とりわけ、地元企業と共同で行う研究は、地域産業の発展にも貢献するものであり、積極的に取り組んでいます。

【産学連携活動の主な成果】



めめはな茶

薬学部 宮瀬敏男 名誉教授
アサヒ飲料株式会社

日本産の「べにふうき」などの品種に多く含まれるカテキンの一種、「メチル化カテキン」の抗アレルギー作用について研究、商品化。機能性表示食品。



受賞



けんこう弁当シリーズ

食品栄養科学部 市川陽子 准教授
株式会社杏林堂薬局

栄養バランスがよく、おいしい健康弁当を多数開発。「家康に倣(なら)う長寿弁当」はデリカテッセン・トレードショー「お弁当・お総菜大賞 2016」優秀賞受賞

域

学生活動 × 地域

剣祭実行委員会

第30回剣祭の開催に向けて

剣祭実行委員会は毎年秋に行われている「剣祭」、春に行われている「スプリングフェスティバル」、新入生の交流のための「ウェルカムパーティー」および春と秋の年に2回行われている「スポーツフェスティバル」の企画・運営を行っている委員会です。1年生から3年生までで構成され、今年の剣祭実行委員会には100名ほどが在籍しています。

今年の10月29日(土)・30日(日)には第30回剣祭が行われます。今年のテーマを「一期一宴」とし、第30回の剣祭にふさわしいイベントを開催します。

剣祭実行委員会は歴史ある委員会となっており、先代が作り上げた企画、イベントを毎年改善し活動を続けています。

昔から、剣祭の運営には真剣にまじめに取り組んでおり、剣祭についての宣伝活動には剣祭実行委員会全員で取り組んでいます。最近では、草薙の方々が運営している「草薙マルシェ」(朝市のような催し)に剣祭実行委員会がお手伝いをさせてもらい、地域の方々との交流を通して、剣祭を知ってもらおうと剣祭の宣伝をさせていただいたりしています。また去年から、プレ剣祭と題して草薙マルシェで剣祭実行委員会の他に静岡県立大学のサークルがダンスや歌の披露をし、朝市を盛り上げ、そして剣祭の宣伝を行っています。他に、草薙の方に県大のことを知ってもらおうと県大および草薙マルシェツアーを昨年から行っています。これは草薙マ



ルシェに来られた方々を県大の方まで誘導し、そのまま県大を案内するというものです。さらに、草薙にあるガーランドチームの方に剣祭をガーランドで彩っていただき、今年も行っていただきます。このように、剣祭実行委員会は地域の方々との交流を大切に、地域の方々と一緒に剣祭を盛り上げることを大切にしています。

第30回剣祭実行委員会
委員長 横江 悠亮



静薬創立100周年記念

講演会・シンポジウム、式典、祝賀会を開催



記念講演会会場の様子

静薬創立100周年を記念して、7月16日（土）に記念講演会・シンポジウムを開催し、会場となったキャンパス大講堂では、多くの来場者が熱心に聴講されました。また、翌17日（日）には、記念式典および祝賀会をホテルセンチュリー静岡にて開催し、多くのご来賓や卒業生、教職員が共に100周年を祝いました。



本庶先生によるご講演

【記念講演会】

記念講演会では、医学博士で文化勲章受章者である本庶佑・静岡県公立大学法人理事長が「PD-1抗体によるがん治療」というタイトルで、講演を行いました。

【シンポジウム】

続いて、「つぎの100年に向けて」－健康長寿の増進に向けて薬学部を期待する－と題したシンポジウムを開催し、山本 敏博氏（社会福祉法人聖隷福祉事

業団理事長）、石川 優子氏（（株）アイドラッグ代表取締役）、高梨 契典氏（中外製薬（株）執行役員 臨床開発本部長）、門脇 真氏（富山大学教授・和漢医薬学総合研究所所長）、木苗 直秀氏（静岡県教育長・前静岡県立大学学長）の5名のパネリストらによる意見交換や提言がありました。



川勝静岡県知事によるご祝辞

【記念式典】

翌日の記念式典では、開式の辞（奥直人・薬学研究院長）、式辞（賀川義之・薬学部長）、挨拶（鬼頭宏・静岡県立大学学長、横倉輝男・静薬学友会会長）に続いて、ご来賓の方々（川勝平太・静岡県知事、文部科学省大臣官房審議官 松尾 泰樹 様、厚生労働省大臣官房審議官 森 和彦 様、全国薬科大学長・薬学部長会議 会長 西島 正弘 様、公益社団法人日本薬学会 会頭 太田 茂 様、公益社団法人日本薬剤師会

会長 山本 信夫 様）からご祝辞を賜りました。また、本学卒業生である山本敏博、鈴木康夫、村松郁延、坂下光明の4氏に対し静薬学友会賞の授与を行いました。



静薬学友会賞の授与式

【祝賀会】

祝賀会は、本学薬学部長による開式挨拶や卒業生代表挨拶（木苗直秀静岡県教育長）、在学生代表挨拶（博士課程4年 福田 達也さん）に続いて、多くのご来賓よりご祝辞を賜りました。宴会は田中一成・静岡県立病院機構理事長による乾杯のご発声によって開会し、100年の歴史を記録した写真をスライドショーで紹介するとともに、本学アカペラ部（The Vivaledge）やジャグリング部（五臓六腑）による余興が披露されました。



賀川薬学部長による祝賀会開会挨拶



祝賀会会場の様子

県内初のハラールサイエンスセミナーを開催



参加者からの質問に答える講師の2人

グローバル地域センターでは、7月29日、公開セミナー「日本におけるハラールサイエンスの可能性」を開催しました。イスラーム圏東南アジアのハラール認証制度では、これを科学的な視点から保証するハラールサイエンスも組み込まれているのが一般的ですが、日本ではあまり知られていません。ハラールサイエンスに関するセミナーは今回が県内初

となります。

当日は、ハラール産業の研究を行う富沢壽勇副センター長の司会進行で、ブルネイでのハラールサイエンス構築に先駆的に貢献したお二人の科学者に講演いただきました。

日本ハラール研究所代表理事でウタラ・マレーシア大学教授のカムルル・ハサン氏は、拡大するハラール市場には

大きなビジネスチャンスがあるとし、ハラール食品の製造、検査等に日本の先端科学技術が活用できることから、是非とも参入すべきであると講演いただきました。

同研究所副代表理事で、大阪大学大学院工学研究科教授の民谷栄一氏は、ブルネイ政府との共同研究の成果を中心に、自身の開発したセンサー技術を用いて、イスラーム教で忌避される豚やアルコール由来の成分を見分けるための検査技術を紹介しました。

当日は県内外の企業や研究者、本学学生、高校生など約60名が参加し、活発に意見交換が行われ、大変好評でした。

当センターでは今後も随時、ハラール関連のセミナーを開催する予定です。

静岡県日中韓学生会議に本学学生が登壇



参加者による記念撮影

8月23日、学内にて、「静岡県日中韓学生会議」（主管：グローバル地域センター）が開催されました。

この会議は、本年12月に静岡市内で開催予定の「日中韓賢人会議（主催：日本経済新聞社、新華社、中央日報）」のサブイベントとして、静岡県の主催で開催したものです。

本県と友好協定を締結する中国浙江省、韓国忠清南道から大学生を招き、本学学生を交えて、「日中韓3国の社会における幸福への期待と危機への対処

をテーマに、各国6名ずつ計18名が登壇し議論しました。

当日は、濱下武志同副センター長の基調講演を皮切りに、国際関係学部の小針・奈倉両ゼミ生による司会進行で、4つのセッションが繰り広げられました。3か国が経済成長する一方、各種の幸福度指標で上位になっていない背景と幸福度向上への道筋を探るため、個人レベル、生活する地方レベル、国家レベルでの幸福度について、報告、討論、意見交換を行いました。

家族や友人との人間関係、学校教育、就職・学生の起業など、若者の生活に直結する話題から、地方の人口流出、魅力ある地域づくり、地球温暖化などの環境問題に至るまで、幅広く真剣な議論が展開されました。課題を解決するためには、三地域が相互に学び、協力することが重要であると確認されました。

参加学生からは、「この会議に出席できたことがまさに幸福であった」「お互いの地域を訪ねたい」との感想が寄せられ、次世代を担う若者の相互理解が深まる有意義な会議となりました。

本会議で採択された「静岡宣言」は、日中韓賢人会議で披露する予定です。



会議の様子



在学生によるキャンパスツアー



看護学部での「防災Z」による救命救急講習



食品栄養科学部の研究室紹介パネル展示



経営情報学部の「謎解きツアー」スタンプラリー



国際関係学部の留学トークライブ



薬学部の模擬薬局見学

8月5日(金)から12日(金)までの5日間、オープンキャンパス2016を開催しました。

今年も高校生や保護者など、約5000名の参加者で賑わいました。学部・学生生活の紹介、教職員・在学生との個別相談会、キャンパス見学ツアー、模擬授業などを通して、本学の魅力が伝わるよう、各学部が趣向を凝らしたプログラムを実施しました。

参加者が大学生生活をよりイメージできるよう、

国際関係学部では、準備から当日の運営まで「SOC」の学生たちが主に行ったほか、看護学部では、防災ボランティアサークル「防Z」による救命救急講習が行われました。また、保護者の方にも本学をより深く理解していただけるよう、食品栄養科学部では保護者の方を対象とした模擬授業を行ったり、国際関係学部では保護者向け説明会を開催したりしました。

更に今年度も、オープンキャンパスに参加できない入学希望者を対象とした夏季大学説明会を実施し、約500名の方にご参加いただきました。

オープンキャンパスのアンケートでは、「学生さんとふれ合うことができ、進路をこれから考えていく上で、大変参考になった」「良い雰囲気の良い大学で入学したいと思った」など、たくさんの嬉しいお声をいただくことができました。

身近な食品を使った実験ブースを出展
ドリームサイエンス2016



出展講師の集合

9月10日（土）に東海大学清水キャンパス（東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部）で開催された「みんなでつなぐ元気がでるドリームサイエンス2016 in Shimizu」に、食品栄養科学部の教員6名と学部3年生8名が講師として参加しました。
「ブドウジュースの色はなぜ変わるの?」、「気体って不思議!」の2つのブースを出展し、来場した子どもたちと一緒に、身近な食品を使った実験を行うこ

とで、科学の楽しさ・面白さを伝えました。実験原理をいかに易しい言葉で伝えるかを考え、子どもたちの反応を見ながら、丁寧に実験を指導することで、学生たちにとっても伝える力を養う良い経験になったと思います。今後も、身近な食品に隠された「科学」を体験できる実験を通して、子どもたちに食品や科学に興味を持ってもらうきっかけ作りの場を提供していきたいと考えています。

体験してみよう!
健康を支えるクスリの科学
夏休みファーマカレッジ2016開催



県内高校生を対象とした「夏休みファーマカレッジ」を、「薬と健康をつくる科学」をテーマに8月4日、5日の2日間にわたって開催しました。この催しは、高校生に、大学の最先端研究に用いられている設備、機器を使って薬学の最新の知識と技術に触れながら、薬学の世界を体験する機会を提供するもので、18回目を迎えた今年は76名の高校生が参加しました。

高校生たちは、「遺伝子から体質を調べよう」「クスリの飲み合わせを調べてみよう」など10の体験テーマに分かれて教員や大学院生の指導の下、白衣に身を包み、機器や器具を実際に操作しながら様々な実験に取り組みました。2日目の報告会では、自分

たちが作ったスライドを用いて、実験・研究の成果を発表するとともに、生徒同士で活発な議論が行われました。

今回の参加者の中から、ひとりでも多くの生徒が将来薬学の世界に進み、次世代の新薬開発や高度医療を担う人材に成長してくれることを期待しています。



高校生アカデミックチャレンジ開催

今夏も高校生アカデミックチャレンジ（商業、食品等）が本学で開催されました。アカデミックチャレンジとは、専門学科または総合学科に在籍する高校生を対象に、大学レベルの教育・研究に触れる機会を作るための静岡県教育委員会主催

のプログラムです。大学講義の体験受講を行うイノベーションチャレンジと、研究室での研究体験を行うチャレンジラボがあります。本学では今年も8月に、商業、食品、農業、薬学分野で高校生を受け入れました。



スマートフォンアプリの開発を体験

イノベーションチャレンジ（商業）が、8月2日～5日に経営情報学部にて開催されました。最終日の5日は、経営情報学部の渡邊貴之准教授による講義が開催されました。スマートフォンアプリの開発を体験し、実際に入力したプログラムがWEB上に反映されているのかを自身のスマートフォンから確認するなど、身近なウェブアプリケーションの裏側に触れました。

企業の業績・株価分析やアプリ開発に取り組む

8日～10日、12日の4日間行われたチャレンジラボ（商業）では、高校生が経営情報学部の2つの研究室（上野雄史講師（会計）、渡邊貴之准教授（情報））に分かれて、経済の仕組みの学習やアプリ開発に取り組みました。上野講師（会計学）の研究室では、実際に企業の業績・株価分析に取り組み、プログラムの最後に各グループで取り組んだ成果を発表しました。

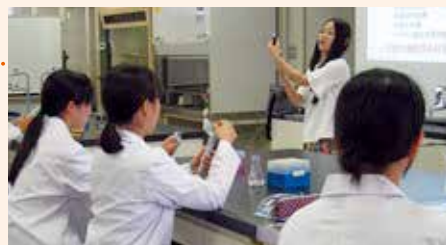


体を動かすエネルギー産生の仕組みを学ぶ

17日、18日には、食品栄養科学部の三浦進司教授の研究室で、イノベーションチャレンジ（食品）が行われました。参加した18名の高校生は、食事からとられたエネルギーが運動によってどのように消費されるのかについて、座学や実験を通して学びました。三浦教授の講義によりエネルギー産生と消費のしくみ等について知識を深めた後、実際に実験器具を装着して、運動時に排出された呼気に含まれる酸素濃度を測定。研究室の学生との交流を交えながら、楽しく実践的な実験を体験しました。

お茶の健康パワーを科学的に解析する

23日、25日～26日の3日間で行われたチャレンジラボ（食品）では、食品栄養科学部の増田修一准教授および島村裕子助教の研究室で、様々なお茶の機能性について実験を行いました。抗変異原性試験、抗菌活性試験、抗酸化性およびカテキン量の測定を通して、お茶の健康効果について科学的な理解を深めるとともに、科学の不思議や研究の面白さを体験しました。



生命現象を司る酵素の働きを学ぶ

22日～25日の4日間で行われたチャレンジラボ（薬学）では、薬学部の鈴木隆教授の研究室で、生命活動に必須な酵素の働きを、酵素活性の測定実験を通して学びました。酵素反応速度の測定など薬学の基礎研究につながる実験を行い、最終日には実験結果をまとめて研究室の学生たちの前で発表を行うことで、普段知ることのない大学での研究活動を体験しました。

鬼頭学長による男女共同参画推進センター講演会 「結婚・家族とジェンダー ～人口問題の視点から～」



学生に問いかけながら講演を行う鬼頭学長

6月2日、全学共通科目の枠内で男女共同参画推進センター講演会「結婚・家族とジェンダー ～人口問題の視点から～」を開催しました。鬼頭学長が講師として登壇し、社会が豊かになればなぜ少子化が起こるのかについて、世界各国にみる伝統的な家族制度の比較などを通し、日本の少子化はジェンダー問題が根深いことを説明していただきました。講義の途中には、結婚、家族、ジェンダー

などのキーワードをもとに参加学生の応答を交え、一体感のある雰囲気になりました。終わりに、「今日の講義から、ただの知識のとどまらず、今後の社会のあり方や自らの生き方について考えるきっかけにしてほしい」という鬼頭学長から参加者へのメッセージが投げられ、大いに有意義な学びの場となりました。

国際関係学部卒業生による「心配学講座」

6月30日、国際関係学部卒業生である島崎敦氏をお呼びして「幸せな生き方を探る心配学」と題した講演を谷田図書館で行いました。図書館が今年初めて企画した「モノ・ヒト・ホンと出会うin図書館」シリーズ講座の第2回。島崎氏は本学卒業後、在学中に取得した各種大型運転免許を活かして大型トラック、タクシードライバーなどを勤めた後、早稲田大学大学院に入学し博士（人間科学）を取得した異色の経歴の持ち主です。現

在は、国立研究開発法人・防災科学技術研究所特別研究員として、認知心理学、人間工学などの知見から事故や災害のリスクを減らそうとしている研究者です。今年1月、光文社新書『心配学「本当の確率」となぜずれる?』を出版されています。講演では、客観的リスクと主観的リスクのズレについて具体的事例を取り上げながら示し、データをモノサシにする重要性を説明していただきました。魅力ある卒業生との出会いに在校

生、教職員とも楽しい時間を過ごしました。



講師によるレクチャー

教職員向け「AEDの重要性と使用方法」研修会



AEDの使用方法を学ぶ教職員

8月26日、学内教職員向けに「AEDの重要性と使用方法」についての研修会を開きました。薬学部教授で医学博士である森本達也教授によるAEDの重要性についての講義、薬学部の刀坂泰史講師による実習の説明の後、参加者全員が実際にマネキンにAEDを装着し使用を体験しました。初めてAEDに触ったという参加者にとっても、使用方法は簡単で、森本教授の「周りの人にもぜひ使い方を教えてほしい」との言葉に大きく頷いていました。

公務員勉強会およびビジネスマナー講座を開催



公務員を目指す学生のための勉強会

7月8日、谷田キャンパスでキャリア支援センターによる公務員勉強会を開催しました。今回は人事院、自衛隊、県、市、静岡県警等の人事担当者が来学し、そ

れぞれの団体や採用に関する説明をしていただきました。

7月14日には、講師にbio-life主宰の田中さおり氏を招き、学生向けビジネスマナー講座を開催しました。これから就職活動を行おうとする学生に向けて、身だしなみとおしゃれの違いや、スーツ、シャツ、靴、バックの選び方、髪形に至るまで丁寧な説明をしていただきました。ビジネスマナーとは、社会人と対等にコミュニケーションを取るため持っていきたいスキルで、第一印象を良くすることが最重要と

のことで、参加した学生は、メモを取りながら熱心に説明を聞いていました。

キャリア支援センターでは今後も学生支援のガイダンスを開催していきます。



講師によるビジネスマナー講座

国際関係学部学生がフランスで研修旅行



INALCOでの記念撮影

9月末の1週間、国際関係学部ヨーロッパ文化コースの学生16名が、フランス研修旅行に参加しました。ヴェルサイユやパリでの全体研修にくわえて、グループごとに剣持久木教授が歴史散歩、浅間哲平講師が文学散歩を引率し、単なる観光旅行ではみることのでき

ない、フランスの歴史や文化の奥深さを堪能しました。さらに、国立東洋言語文化研究院 (INALCO)を訪問し、日本美術史が専門のミカエル・リュケン教授の指導下で日本文化を学ぶフランス人学生たちとも交流しました。

大邱保健大学海外研修について(短期大学部)

短期大学部では平成26年度から、韓国大邱保健大学との大学間交流を行っています。今年度は7月14日から28日までの2週間、初めて大邱保健大学学生3名の受入を行いました。

研修内容としては、大学の講義受講や施設での研修など、日本の社会福祉について学び、さらに茶道など日本文化

の体験なども行いました。

8月13日から27日までは、歯科衛生学科の4名の学生が韓国へ研修に行きました。

研修前半は、世界12か国から65人の学生が集まり、様々なテーマについてグループディスカッションなどを行い、文化の違いなどについて理解を深めました。研修後半では、歯科病院の見学や実習を

行い、日本と韓国の歯科医療の違いなどを学びました。



韓国雲門寺での記念撮影

第26回星・木苗杯を開催(大学院)

実行委員/内野皓平 山下順弘 高本直矢 戸塚直希(業食生命科学総合学府食品栄養科学専攻博士前期1年)



当日参加した学生と教員

今回で第26回となる食品栄養科学部恒例のテニス大会「星・木苗杯」を、9月25日に開催しました。

当日はうだるような暑さでしたが、怪我人もなく最後まで試合を行うことができました。参加していただいた皆様のご協力に大変感謝しております。参加者24人中、男子では食品衛生学研究室の山下順弘さん、ケミカルバイオロジー研究室の戸

塚直希さん、女子では食品工学研究室の石山明さんが優勝し、トロフィーと記念品が授与されました。試合中は皆笑顔に溢れ、とても楽しくプレイをしていたので、実行委員一同とても嬉しく思っております。教員や学生が一堂に会し、交流する機会は非常に貴重だと思うので、今後もこのような機会を大切に、人と人のつながりを深めていきたいです。

活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 風間 千裕さん
卒業学部 経営情報学部経営情報学科
(2009年3月卒業)
勤務先 株式会社しずおかオンライン
<http://www.esz.co.jp/>

Q1. 現在のお仕事について教えてください。

静岡県内で計15万部発行している女性向けフリーマガジン『womo』（ウーモ）の編集長として企画・運営に携わっています。最近ではウェブサイトやアプリなどのメディアも活用しながら、静岡での暮らしや人生が楽しく幸せになるお手伝いをしています。現在約1万人が登録をしているwomo会員とも、座談会を通じて直接触れ合う機会を設けています。わたしたちの考えた企画で多くの女性に行動を起こしてもらえることがこの仕事のやりがいです。

Q2. 大学生生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

所属していた岩崎ゼミの活動が今の会社に入社するキッカケになっています。マーケティングの知識を学び、実際に地元商店街のコンサルティングに携わったことで、静岡の魅力をもっと伝えたいという想いが大きくなりました。また、社会人の前でプレゼンをする機会も多く、伝えたいことをアピールする力が身につきました。そのおかげで社会人1年目で営業部に配属されたときも、担当クライアントの前で堂々と話することができたと思います。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

ゼミ活動で実際に働いている社会人の方々と触れ合えたことです。新しい意見や斬新なアイデアをどう具体化し、どう実現していくか。実際の現場におけるビジネスの進め方を目の当たりにすることで、自分が働く際、違和感なく進めることができました。また地元大学出身という点では、クライアントとの会話の接点になったという場面も多かったです。

Q4. 今後の目標について教えてください。

womoを通じて、静岡をもっと元気で活気あるまちにしたいと思っています。良くも悪くも平均的でのんびりした傾向にあるといわれる静岡県民ですが、本当はもっと地元の暮らしをエンジョイしたいという気持ちは強いはず。そのために、消費の鍵を握る女性のニーズを吸い上げるのはもちろん、学生のみなさんのフレッシュな意見や行動力を活かし、よりまちに人があふれ、地元の人々が繋がるコミュニティを創ってきたいです。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

コミュニケーション能力、さまざまなことへの興味関心、これが学生時代にわたしがもっと身につければよかったと思うものです。同じ友達やグループと過ごすだけでなく、あえて話したことの無い人たちの輪に入ってみたり、興味の無いジャンルに飛び込んでみたり。学生の今しかできない時間の過ごし方で、さまざまな価値観に触れてみてください。

お名前 小出 明弘さん
卒業学部 大学院経営情報イノベーション研究科
(2013年3月卒業)
勤務先 ヤフー株式会社

Q1. 現在のお仕事について教えてください。

Yahoo! ショッピングやオークションなどサービス向けのレコメンデーションエンジンの開発に取り組んでいます。ヤフーには、お客様の購買履歴や検索履歴といった多種多様なデータが存在します。それらを活用し、お客様の嗜好に合うようデータの取捨選択やアルゴリズムの改善を行うのは多くの試行錯誤が伴います。その結果として会社の利益やお客様の利便性の向上につながった時には、この仕事をやってよかったと感じます。

Q2. 大学生生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

学部3年時から4年間、斉藤研究室にお世話になりました。その中で、仮説の構築・検

証・考察というサイクルをいかに早く、正確に繰り返していくかを学びました。ウェブの世界では現実以上に状況がめまぐるしく変化しています。その速さに対応するためには、このサイクルを高速かつ正確にまわし続けていく必要があります。この大事な技術を教わるのができたことで、今の業務にも対応することができていると感じます。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

少人数でゼミや演習が受けられることだと思います。会社の同僚などに話を聞いてみると、学生がたくさんいる大学では教員に対して学生数が多く面倒を見切れないといったことがよくおきているようです。県大では、多くの研究室が少人数で構成されているため、教員とも密にコミュニケーションを取ることができます。私自身も、指導教員と日々議論を重ねることができたことで、多くの研究成果を上げることができました。

Q4. 今後の目標について教えてください。

現在、ビッグデータ・人工知能といったキーワードがバズワードとして世間一般にも認知されるようになってきており、多くの企業がこの領域に参入しています。その中で、ヤフーはほかの企業にはない、サービスからの多種多様なデータを活用することができます。このメリットを生かしてこの領域で先頭を行く会社になること、そして私ができることとして貢献できることが目標です。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

大学のときにしか出来ないことに本気で取り組んで欲しいと思います。大学のときにしかできないというのは、遊ぶことやバイトをすることではなく、興味のあることにどっぷりつかることです。そこで得た知識が社会に出たときに直接役に立たないこともあると思いますが、その過程の考え方や行動は大きな財産になります。社会人になって一番できないことは「一から勉強しなす」ということです。

研究室訪問 NO.13



国際関係学部国際関係学科 島田研究室

島田 剛 准教授

世界的な格差問題に日本が果たすべき役割とは？

— 先生がこれまで取り組まれてきた研究と、そうした研究を行おうと思われたきっかけは何ですか。

主に3つの分野の研究をしています。第1は途上国の貧困問題や開発の課題です。第2は国連の途上国開発の側面です。第3は、災害後の復興と社会的な繋がりについての研究をしています。

昨年、静岡県立大学に来るまでの23年間、JICA（国際協力機構）で勤務しており、産業開発・公共政策部の産業・貿易課長、理事長秘書役、人事部など様々な分野での業務を経験しました。業務を遂行する中で、途上国の現場が直面する課題を解決するために、JICAはどのような役割を果たすべきかについて考えを深めていたときのことで、ニューヨークの国連代表部に出向時、当時のJICA理事長である緒方貞子氏と共に、「JICAの途上国支援には、世界の他の先進国と協調していくことが重要ではないのか。そのためには、研究により、さらに効果的

な支援のあり方を探っていくべき」という会話を交わしました。その後、JICAの研究立上げが実現化し、しばらく後に主任研究員として研究所で研究するようになりました。よりよい研究が行われることで、先進国としての日本の持ち味を最大限に活かした支援に結びつき、結果として途上国の現場で起こる課題を解決できると考えています。現在の世界経済は特に新興国の経済発展もあり、国の間での格差は縮小してきている一方、国の中での格差は拡大してきています。この格差をどう縮小するか、そうした研究を行っています。

— 世界的な格差の問題に日本は貢献できるのでしょうか。

日本人なら誰も「カイゼン（改善）」という言葉聞いたことがあると思います。戦後から日本企業が行ってきたカイゼン、つまり品質・生産性の向上が、実は世界的に大きな注目を集めています。その理

由の一つは高い経済成長率と、格差の是正を同時に成し遂げたことです。そして1995年日本がカイゼンを導入する際に労働組合との長い交渉の末に出された「生産性運動の3原則」に見られるように企業の業績が上がるとそれが賃金に反映されるような労使間の交渉など、様々な工夫が戦後の日本の経済成長には見られます。こうした経験に基づく国際協力は実際に効果もあげてきています。日本語である「KAIZEN(カイゼン)」が海外でも通じるくらいです。日本の企業で行われていた「カイゼン」が途上国でどのような影響を与えているのか、研究を進めているところです。もちろん、全てがうまくいっているかと言えば、必ずしもそうではない部分もあります。私は、成功すること＝成果ではなく、うまくいかない場合も含めやってみてわかったこと＝成果であり、そこで学んだことを活かしてこそ成長であり発展だと思っています。日本社会で長年にわたって取り組まれてきた「カイゼン」も同じことが言えるのではないのでしょうか。

一 研究室の学生たちについて教えてください。

意識とやる気の高い学生達が集まっています。この研究室は昨年からはまったばかりですが、留学している学生も留学を経験した学生も多いことが特徴です。また、カンボジアの NGO 活動などに参加する学生もいますし、1名は中国からの留学生で、国際的な活動に興味のある学生が多いのが特徴です。同時に、日本国内の地域発展に真剣に取り組んでいる学生が多いのも面白い点です。ゼミを通じてこうした世界と日本の両面を見る視点を養っていきたくと思っていますし、それをさらにキャリアにつなげていって欲しいと思っています。



県立大のOGでもあるJICA伊藤雅氏を外部講師として招いてのゼミの様子

STUDENT VOICE



国際関係学部 3年
田中 美緒さん

以前から「国際協力」という言葉に関心があり、より自分の関心分野の理解を深めていきたいと思い、この研究室を志望しました。研究室では、先生やゼミ生からの豊富なフィードバックを受け、より自分の研究に打ち込んでいける環境であることがこの研究室の魅力の一つだと思います。

私は「人間の安全保障」を研究テーマとして定めています。貧困・武力紛争・自然災害など様々な脅威が乱立する中で、人々を守り、それぞれの持つ可能性を実現させていこうとする考え方です。私は、自分でも可能な「人間の安全保障」をこれから詳しく研究していきたいと思っています。将来的には研究テーマを活かし、海外との取引を行う民間企業等を通して、多くの人々への豊かな生活の提供を叶えていきたいと思っています。



国際関係学部 4年
増田 哲也さん

オーストラリアとカナダでの留学後、島田先生の国際経済学の授業に出席しました。それまで経済学に関してあまり知識がなかった自分でも分かりやすく考えさせてくれる島田先生に憧れを抱き、島田ゼミに入ることを決めました。JICAで実務経験を積まれた島田先生の知識は幅広く、学生の興味、関心に対して適切なアドバイスをくださいます。

卒業論文は、僕自身の故郷である富士宮市が抱える課題の解決を目指し、島田先生の専門分野でもある持続可能な町おこしとソーシャルキャピタルの関係性について研究しています。就職先がIT企業に決まり、システムエンジニアとしてキャリアを積んだ後、海外(途上国)で働きたいと考えています。そのために、ゼミで問題解決能力を養い、どんな手段、方法があるのかを模索していきたいと考えています。



しまだ ごう
島田 剛 准教授

1969年神戸市生まれ。博士(学術、早稲田大学)。現在、コロンビア大学・客員研究員、JICA研究所・招聘研究員、早稲田大学・招聘研究員も兼ねる。1992年から2015年までJICAで勤務。JICA研究所主任研究員、企画課長、産業開発・公共政策部 産業・貿易課長、理事長秘書役、国連代表部・一等書記官などを経て現職。本年、11月に次の本が発刊予定。

Go Shimada. Forthcoming. Inside the Black Box of Japan's Institution for Industrial Policy - An Institutional Analysis of Development Bank, Private Sector and Labour. In Akbar Noman and Joseph Stiglitz, eds. Efficiency, Finance and Varieties of Industrial Policy. New York: Columbia University Press.

島田研究室
教員1名 学生7名(留学中などが3名)



産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

シーズ&ニーズマッチング会を開催

シーズ&ニーズマッチング会

産学連携ってなに？ 具体的にどんなことができるの？ 事例を知りたい！

「**専門家が両者のニーズをコーディネート！！**」

企業・個人事業主様 静岡 TTO、産学官連携 CD 大学の研究者

2016年 9月 5日(月) 13:30 ~
16:00 ~ 個別相談会

開催場所：静岡県立大学 谷田キャンパス 小講堂
(〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52 番 1 号)

■ シーズ発表	■ 事例発表
国立大学法人 静岡大学	株式会社ウェルビーフードシステム
静岡県立大学法人 静岡県立大学	株式会社けんだいがかり

静岡 TTO では、提携研究機関が技術移転コーディネーター等を派遣し、両部 TLO が結集した組織体を形成しており、研究機関の垣根を越えて、効果的な技術移転活動をおこなっています。このたび、県内企業様を対象に、大学からシーズの研究発表の場を用意しました。また、企業から事例の紹介もあつまり、産学連携の共同研究の契機としてお役に立てて頂ければと思います。

■ 静岡技術移転合同会社(静岡 TTO) 静岡市駿河区谷田 52 番 1 号 静岡大学イノベーション社会連携推進機構内
TEL・FAX : 053-435-9209 E-mail : ip-teaf@stto.jp

マッチング会のチラシ



講演風景



金子講師

齊藤准教授

熊澤教授

企業が日頃から求めている「ニーズ」と、大学教員が専念している研究の「シーズ」に関して出口戦略の一環として標記のマッチング会を企画しました。

当初、静岡県立大学単独での開催を模索していましたが、技術移転コーディネーター等を有し、効果的な技術移転活動を行っている静岡技術移転合同会社（静岡TTO）に相談したところ、静岡大学にもお声掛け頂き、最終的には静岡TTO主催、静岡大学共催として連携して開催する運びとなりました。

当日は、静岡大学及び県立大それぞれ「産学連携の仕組み紹介」と題した発表の後、静岡大学からは2名の先生に、県立大からは3名の先生（薬学部 金子雪子講師、薬学部 齊藤真也准教授、食品栄養科学部 熊澤茂則教授：発表順）に最新の研究結果を紹介して頂きました。さらに、今回の目玉として産学連携の成功した事例についても企業2社から発表して頂き、注目を集めたと考えています。

休憩時間には、県立大の共同研究成果品である「けっこうかみごたえあるドーナツ」及び「県立大アー

ルグレイ」を景品とした抽選会を開催し、産学の取り組みと成果について商品をPRでき、大きく盛り上げることができました。

会の終了後には個別相談会もセッティングし、名刺交換等も活発に行われ、来場者にとって実り多き会となりました。今回のシーズ発表をきっかけに、複数の共同研究依頼があり、検討が進んでいます。

最後に、静岡TTOをはじめ講演された方々、スタッフ等関係各位の御尽力に心から感謝申し上げます。

図書館 だより

2キャンパス合同学生選書ツアー

小鹿・谷田図書館

学生選書ツアーは、利用する学生の視点から附属図書館に必要な本を選定するもので、戸田書店静岡本店のご協力を得て今回7年目の開催となります。短期大学部附属図書館と合同で実施しており、本の選定・展示は多くの学生の興味と感心呼び、附属図書館の大きな魅力となっております。

今回は、薬学部2名、国際関係学部5名、経営情報学部3名、薬食生命科学総合学府1名の11名が参加し、時間一杯まで店内を巡り選定をしていました。選定された図書は、現在、本人手書きのポップと共に、図書館1階中央の特別展示コーナーに配架されています。

あなたの物語が、図書館から始まります。見て、触れて、お楽しみください。



私の一冊の本

紹介者 吉成浩一教授(薬学部)

紹介図書 統計学が最強の学問である [実践編]



編集者:西内啓

出版社:ダイヤモンド社

発行:2014年10月

請求記号:350.1 N86-2

ISBN:978-4-478-02823-0

薬学部生をはじめ、生命科学・医療系の学生や、実験研究者が最も嫌いな科目の1つは「統計学」ではないでしょうか(ご担当の先生方、すみません)。一方で、多くの学生・実験研究者は、実験研究を進めるうちに、統計(学)が避けて通れない道であることを知ることになります。また、10年くらい前から「ビッグデータ」や「データサイエンス」が自然科学や社会科学の中で注目され、日常生活でもこれらの言葉を目にする機会が多いと思います。薬学分野でい

うと、医薬品の開発やがんの診断・治療にビッグデータが大きな成果を挙げつつあります。統計学は、ビッグデータから価値のある情報を見つけ出すための重要なツールの1つです。

本書は、「統計学が最強の学問である」の続編として執筆されました。非常にキャッチーなタイトルで、タイトルだけ見ると「統計学がいかにも凄いか」が永遠と書かれているのではないかと想像するかもしれませんが、前書は、統計学の「入門の入門書」として統計学とは何なのかを専門外の方でも分かりやすく解説し、続編である本書は、もう少し具体的に実例を挙げて解説しています。

例えば、「平均」、「割合」、「誤差」など、科学の分野だけでなく日常生活でも使うありふれた統計学用語の解説からはじまり、より専門的な「検定」や「回帰分析」についても触れられています。「3人の営業マンの訪問回数と契約数」、「体育系出身者かどうかでみるボーナス支給額の比較」、「Aさんは、BさんとCさんどちらと似ているか」など

の表現から分かるように、専門的になりすぎず、読み物として読めるように書かれています。

本書で著者も書かれていますし、私自身もそうですが、理系の専門書を読んでいて、数式が出てくると読む手が止まる、という経験をした方も多いと思います。本書は約450ページからなり、数学的補足に約80ページが当てられています、それらは巻末にまとめられ、読む手が止まらないように工夫されています。

また、専門書のイメージを持たれるかもしれませんが、著者の経験や社会との関連(ビジネスでどのように役立っているかなど)の記述に多くのページが割かれ、自然科学・社会科学の垣根なく楽しめる本だと思います。そのため、本書を読んでも「統計」ができるようになるわけではありませんのでご注意ください!

著者が言う「統計学のスタートラインに立つための本」として、あるいは大学生・社会人の教養書として読んでみてはいかがでしょうか。



JR草薙駅新駅舎がオープン!!



9月18日、本学谷田キャンパスの最寄駅であるJR草薙駅が生まれ変わりました。新駅舎の完成と共に、南口と北口を結ぶ自由通路が整備され、歩行者は踏切を渡らずに南北の

行き来ができるようになりました。南口の愛称は「県大・美術館口」です。自由通路には県大のポスターも掲出され、草薙と県大がより身近に感じられるようになりました。



県大に多目的保育支援施設を開設しました!!



平成28年10月より、保育事業者(保育支援グループ すわん)と協定を結び、一時保育を主な機能のひとつとした多目的保育支援施設を看護学部棟3階、男女共同参画推進センター内に開設いたしました。講義、出張、急な用事などで子どもの世話ができないときに、子どもを預けることができます。子どもを傍らにおいて遊ばせながら、ミーティングや研究会、情報交換の場としても利用できます。この施設が、静岡県立大学のすべての教職員にとって、働きやすい環境や子育て支援の一助となることを願っています。

平成28年春市民勉強会

「生命と自然—科学と技術のフロンティア」がオンライン公開されました。

2016年3月に3回にわたって行われた平成28年春市民勉強会「生命と自然—科学と技術のフロンティア」がオンライン公開されました。この勉強会では、まず物理的見方か

ら、①「食品・ゴムなどのやわらかい物質の実験シミュレーションと地震現象との接点」の話に始まり、続いて、大豆の大切さについて、②「大豆を通じて世界の食糧問題、健康的な食の

追求などを検証」と展開していきます。最後に身近な健康関連で、③「現代の食生活と腸の機能との不適合による生活習慣病など」を取り上げました。

▼下記のサイトから各講義のスライドをご覧ください。

<http://universe1.sakura.ne.jp/OnlineLec2016-17.html>



左記のサイトをご覧ください。

教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

教員

受賞者名	所属	受賞名
岩尾 康範 准教授	薬学部	日本薬剤学会第31年会 2016年度日本薬剤学会旭化成創剤研究奨励賞
佐藤 秀行 助教	薬学部	日本薬剤学会第31年会 最優秀発表者賞
清水 広介 講師	薬学部	第8回日本DDS学会奨励賞
刀坂 泰史 講師	薬学部	平成28年度日本薬学会東海支部 学術奨励賞
三宅 祐一 助教	食品栄養科学部	公益財団法人鉄鋼環境基金 2016年度助成研究成果表彰 技術委員長賞
三宅 正紀 講師	薬学部	第28回微生物シンポジウム ベストアブストラクト賞
豊岡 利正 教授	薬学部	2016年度日本分析化学会賞
徳村 雅弘 特任助教	食品栄養科学部	環境科学会 2016年会 最優秀発表賞 (富士電機賞)
山田 浩 教授	薬学部	28年度O-CHAバイオニア賞学術研究大賞
高橋 忠伸 准教授	薬学部	一般財団法人バイオインダストリー協会 2016年度化学・生物素材研究開発奨励賞

学生

受賞者名	所属	受賞名
福田 達也・西川 充展	薬食生命科学総合学府	日本薬剤学会第31年会 最優秀発表者賞
仁平 拓也	薬食生命科学総合学府	日本薬剤学会永井財団大学院学生スカラシップ
上野 宏大・芝切 若奈	薬学部	永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞
野口 真里加	薬学部	日本医薬品情報学会総会・学術大会 優秀演題賞
二俣 傑・田本千尋	薬食生命科学総合学府	第62回日本薬学会東海支部大会 優秀発表者賞
内田 雅之	薬学部	
三澤 尚己	薬食生命科学総合学府	日本食品科学工学会第63回大会若手の会 優秀ポスター企業賞
柳澤 拓摩	薬学部	第14回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2016) 若手研究者奨励賞
高山 卓大	薬食生命科学総合学府	第29回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2016) 星野賞優秀発表賞
天白 宗和	薬学部	日本分析化学会第65年会 若手ポスター賞
村上 拓	薬食生命科学総合学府	フォーラム2016: 衛生薬学・環境トキシコロジー 平成28年度日本薬学会環境・衛生部会新人賞
奥村 小春	薬食生命科学総合学府	フォーラム2016: 衛生薬学・環境トキシコロジー 日韓次世代シンポジウム・ポスターセッション 優秀発表者賞
清水 彩加 鈴木 菜都美 山梨 有沙子 横山 里紗	経営情報学部	大学生観光まちづくりコンテスト 2016 大分ステージ ツーリズム大分会長賞
石田 裕文 澤谷 俊明 外山 真衣	薬食生命科学総合学府	第135回日本薬理学会関東部会 優秀発表賞

※学生の所属は受賞時のものです

教員人事

◆採用

氏名	所属	職名	採用日
木村 晋一郎	薬学部薬学科	助教	平成28年9月1日付
酒井 知子	看護学部看護学科	助教	
田中 悠美	看護学部看護学科	助教	

氏名	所属	職名	採用日
天野 政紀	経営情報学部経営情報学科	助教	平成28年10月1日付

氏名	所属	職名	採用日
黒川 洵子	薬学部薬学科	教授	平成28年11月1日付

◆退職

氏名	所属	職名	退職日
ケネス ヨホ	言語コミュニケーション研究センター	特任講師	平成28年8月3日付

氏名	所属	職名	退職日
天野 歌子	看護学部看護学科	助教	平成28年8月31日付

氏名	所属	職名	退職日
浅川 倫宏	薬学部薬学科	助教	平成28年9月30日付
清水 広介	薬学部薬学科	講師	
杉本 収	食品栄養科学部食品生命科学科	助教	
藤澤 由和	経営情報学部経営情報学科	准教授	

●配置換

氏名	元所属	新所属	職名	配置換日
古賀 震	短大看護学科から	看護学部看護学科	教授	平成28年10月1日付
深江 久代		看護学部看護学科	教授	
鈴木 琴江		看護学部看護学科	准教授	
長澤 利枝		看護学部看護学科	准教授	
菅原 清子		看護学部看護学科	講師	
前野 真由美		看護学部看護学科	講師	
永谷 実穂		看護学部看護学科	講師	
今福 恵子		看護学部看護学科	講師	
石垣 範子		看護学部看護学科	助教	
安藤 継子		看護学部看護学科	助教	

●教員昇任

氏名	元所属	新所属	職名	昇任日
井上 和幸	薬学部薬学科	薬学部薬学科	准教授	平成28年10月1日付
梅原 薫	薬学部薬学科	薬学部薬学科	准教授	
稲井 誠	薬学部薬学科	薬学部薬学科	講師	

はばたき

●次号134号は2017年3月1日発行の予定です。

133号 2016年11月1日発行
発行元/静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学広報・企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
- TEL/054-264-5130 ■FAX/054-264-5099
- E-mail/koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

はばたき読者アンケート

今後の広報誌ははばたきをより充実したものにするため、読者の皆さまの声をお聞きしたく広報誌はばたき読者アンケートを実施いたします。より多くのご意見・ご感想を広報誌に反映させていきたいと考えておりますので、ご回答のご協力をお願いいたします。以下のURLまたはQRコードから回答フォームへアクセスしてください。どうぞよろしくお願いいたします。

https://req.qubo.jp/u_shizuoka/form/habataki



公認 古庄自動車学校

「はばたき」読者限定!

県大生応援キャンペーン!!

〈お申込時にこの冊子をご持参下さい〉

2016年 12月25日(日)までのご入校で
東京近郊 テーマパークパスポートが
人気 ペアでもらえる!

※普通自動車で入校の方が対象です
※限定解除の方は対象外とさせていただきます
※他の割引との併用不可

基本料金 普通車(免なし・原付所持)

292,680円(税込)

AT
免なし

271,000円

(税抜)

平成29年3月12日
道路交通法改正により
準中型免許が新設されます。

来年の3月10日(金)までに普通免許を
取得しないと運転できる自動車
が限定されますので早めの
取得がお得です!



305,640円(税込)

283,000円

(税抜)

※仮免試験手数料2,800円(非課税)が別途必要です

古庄は 特典がいっぱい!

夜間料金無料

技能オーバー無制限保証

再検定料一切不要

優先予約で短期取得可

免許は取ったけどしばらく
乗ってないから運転が不安で...

卒業生特典
ペーパードライバー講習
1時間無料

※普通車のみ：2・3・8月を除く

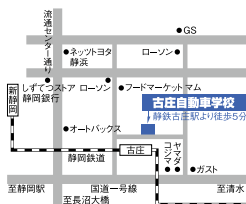
【基本料金にふくまれるもの】入所料、教科書代、適性検査料、規定学科教習料、規定技能教習料、効果測定料、修了検定料、卒業検定料、高速道路通行料、写真代、卒業証明書交付料に係るすべての金額及び消費税※古庄自動車学校では基本的には高速教習を実車走行で実施。【別途料金の案内】[予約キャンセル料]本体価格1時間あたり1,000円(8%税込価格1,080円)※当日分の予約をキャンセルする場合[自己都合自由教習]本体価格1時間あたり4,000円(8%税込価格4,320円)【途中解約の場合】お客様の都合により退校する場合は、同校の規定により未受講学科教習料、未受講技能教習料、未受講検定料などは返金されません。

※古庄自動車学校の個人情報の取り扱いについてはホームページ内の個人情報保護ポリシーを参照。

お申込みは
フリーダイヤル 0120-155-168 | 携帯からもOK
※デフォルト番号をおかけください。

入校手続き お申込み

【入校日】	火曜日(17:00) 木曜日(15:00) 土曜日(9:00) 日曜日(13:00)
	3時間ほどかかります(視力検査、適性検査、説明、学科教習)
【持ち物】	筆記用具、本籍記載の住民票(免許証のある方は住民票不要)、身分証(健康保険証、パスポート)、眼鏡等
【視力等】	片眼0.3以上、両眼で0.7以上 信号機の色が識別できる方 身体に障害のある方は事前に中部運転免許センター(054-272-2221)の運転適性相談窓口にて適性相談をお受けください。



公認 古庄自動車学校

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目11番15号
TEL.054-261-1551
FAX.054-264-0940
<http://www.flushyou.co.jp>
E-mail:main@flushyou.co.jp

